

## Windows 7

マイクロソフト株式会社 齊藤 仁

Windows 7<sup>®</sup>が10月22日に発売されました。Windows 7は、Windows XP<sup>®</sup>/Vista<sup>®</sup>から進化・改良された最も新しいオペレーティングシステムです。

本稿では多くの新機能の中から、学校での活用に関与するポイントをご紹介します。

### 1. 高い互換性、Windows XP互換モード

2001年の発売以来、Windows XP上では多くのソフトウェアが開発され、学校でも多く採用されました。Windows 7では、高い互換性により古いソフトウェアもそのまま活用することができます。しかし、それでもどうしてもXPを使用したい場合があります。Windows 7では仮想化技術を使用し、Windows XP互換モード（対応したパソコンが必要）を搭載し、パソコンの中にもう1台のXPのパソコンを同時に存在させることができます。

情報系の多くのテキストは古いバージョンのソフトウェアの画面イメージで印刷されています。オペレーティングシステムが新しくなった場合、教材と実際のパソコンの画面が異なり、授業の進行に影響が出てしまうことがあります。このXP互換モードを使用することにより、利用したい古いアプリケーションをそのままの画面イメージで使えるようになります。

### 2. ノートパソコンに最適な改良

教室での板書のほか、パソコンのデータをプロジェクタに投影したり、ホールでの発表などでノートパソコンをプロジェクタに接続したりする機会が多いかと思います。なかなかうまく写せなかったり、手間取ったりした経験があるのではないのでしょうか。Windows 7では、プロジェクタ接

続を手軽に行える簡単な機能があり、Windows キー+ [P]を同時に押すことにより、プロジェクタへの出力を簡単に行うことができます。

### 3. Bit Lockerセキュリティ

個人情報保護やプライバシーに対する意識が年々高くなっている中で、USBメモリの紛失による情報漏えいや、ノートパソコンの盗難により個人情報のデータ流出などの事件が頻繁に報道されています。このような事態を防ぐために、Bit Lockerというハードディスク全体を暗号化するしくみのほか、Bit Locker To Goという機能が備わり、USBメモリに対しても暗号化を施し、パスワードプロテクトを可能にします（上位バージョンのみ対応）。

### 4. パフォーマンス、操作性の改良

Windows 7では、起動とシャットダウンのスピードがVistaに比べて約23パーセント、速いとされているXPに比べても約15パーセント高速化され、メモリ消費も低く抑えられています。

また、操作性が改良され、操作に必要なクリック数を減らし、さまざまな操作をより簡単に行えるようになりました。手順が短くなった分、操作説明が容易で、授業を行う場合でもさまざまなケースで視覚的に余計な操作が軽減され、生徒の理解度の向上が見込まれます。

また、対応するタッチパネルを備えたパソコンであればマルチタッチと呼ばれる、両手で直接画面を触りながら操作する機能が使用できます。

### 5. 改良されたアクセサリ群

Windows 7ではアクセサリが大きく改良・追加されました。ペイント、ワードパッド、電卓の改良とともに新規に手書き入力対応の数式入力パネルが追加され、複雑な数式入力が簡単に行えるようになりました。マイクロソフトワードや、今後新しい数学関連ソフトウェア（MathML対応が必須）での活用が予想されます。